『実況中継　まちづくりの法と政策　ＰＡＲＴⅣ』
推薦の弁

矢野　達雄

いまや愛媛大学総合政策学科の目玉となった感のある坂和弁護士による集中講義「都市法政策」も４回目となった。１年おきの集中講義だから、７年目に突入したことになる。この授業を再現した『実況中継　まちづくりの法と政策』も、ＰＡＲＴⅣを数えることとなった。

ＰＡＲＴＩで著者が繰り返し強調していたように、日本の都市法は複雑怪奇で、その全貌が杳として摑みきれない。ＰＡＲＴＩは、この迷宮のような都市法体系を腑分けして、読者に分かりやすく提示したことによって好評を博し、ダブル受賞の栄に浴した。

しかしそれから７年経って、日本の都市法をめぐる政治・社会情勢も転変した。小泉内閣の登場と小泉構造「改革」の推進は、もっとも顕著な例であろう。都市法のあり方がどのように変わったのか、あるいは変わっていないのか、私たちの関心はこの点にあるのだが、なかなかこれを摑むのは容易でない。

実は今回のＰＡＲＴⅣは、その点が主題となっている。これを把握する方法として、坂和弁護士はユニークな方法を採用している。耐震強度偽装やアスベスト問題など世事ネタと映画評論という搦め手からの接近である。一見本筋とは関係のないムダ話の展開のようにも見えるが、実はそうではない。日本の都市法の現状は、出来た法律の条文だけを眺めていても駄目だ。小泉「改革」をはじめとする政治・経済・社会の動きと一体に考えないと、個々の法律の意味もさっぱり見えてこないのだ。今の学生諸君は、現今の世界や日本の動きに驚くほど疎い。学生諸君の現実感覚を涵養するというねらいに、世事ネタは直接にインパクトを与え、そして映画評論は間接的に奉仕する。

弁護士のこの手法は、講義を受講した学生のみならず、この書を手に取るすべての読者にも有効であろう。読者は、「坂和ワールド」を楽しみながら、いつの間にか現代日本都市法の全貌を理解することになるのである。

（愛媛大学法文学部総合政策学科教授）